

まえばしハニープロジェクト×市立前橋コラボ企画 「ゆりちゃんとミツバチリリー」出版



探究通信第14号
R5.3.28
絵本プロジェクト号

絵本作りの想いを伝える

3月18日(土)に前橋市総合運動公園にて、市まちづくり公社主催の絵本出版記念公演に参加してきた。



絵本プロジェクトのメンバーが配役を割り振り、読み聞かせを行った

当日は雨天ながらも、たくさんの親子連れで賑わい、読み聞かせの際には紙芝居の前に子どもたちが集まり、物語を聞き入っていた。

2年生の有志18名は、6月に「まえばしハニープロジェクト」で行う養蜂の様子を見学し、ミツバチの生態を学ぶところから2月初



旬に色塗りを完成させるまでの8か月間、絵本作成に携わった。6月には2度にわたる総合運動公園でフィールドワークを行った。8月には「大人のミツバチ講座」に参加し、ミツバチについてのINPUTを行った。12月には群馬イノベーションアワードにて絵本出版の広報活動を行い、1月には国立赤城青少年交流の家で行われた「地域探究アワード」に大谷優奈さん、齋藤千寛くん、鈴木歩乃香さん、福田夢月さん、山本詩織さんが「高校生が絵本をつくってみた!」という題で自分たちの活動をまとめ、発表する、いわばOUTPUTの活動を行ってきた。



「未来への贈り物」を子どもたちへ

「まえばしハニープロジェクト」は2019年4月にエフエム群馬パーソナリティの内藤聡さんの発案により始まった。2021年6月、「けやき祭」で探究学習の一環として、前橋中心商店街とのコラボレーションを行った。そこで当時の1年1組が、前橋テルサで養蜂をし、環境教育や街づくりに繋げる本事業の紹介とはちみつの販売をしたことからつながりが生まれ、今回の絵本コラボ企画が実現した。「私たちが地域活性化のために何ができるか」の命題の一つの答えが、内藤さんが絵本の帯につけた言葉、「未来への贈り物」である。



ことは楽しい作業ではあったが、何人もの意見の擦り合わせ、求めるコンセプトから外れてはならないことなどの制約やページ数が限られているからこそそのシーン割など、ある種苦しい作業でもあった。絵本出版記念公演で、読み聞かせの前念公演で、読み聞かせからのインタビューの中で「大変だったことは？」と聞かれた生徒たちは口々に「ストーリー作成に苦労した」と答

生徒たちの考えた物語を作画してくれたのは絵本作家のよねまるみさきさんである。そのやさしいイラストに生徒たちが分担して色を塗った。絵本が完成し、手元に届いたとき、「家宝にする」と言った生徒がいた。関わったメンバーはまさに「宝」と呼ぶべき経験をさせてもらった。



絵本の最後のページには本校の紹介が載る